

小学校国語

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は国・県より上回っている。
- 学習指導要領の領域別に見ると、「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の正答率は、国・県を上回った。しかしながら「知識及び技能」の(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率において、県は上回ったが全国を下回った。
- 問題形式別で見ると、平均正答率は「選択式」、「記述式」については、全国・県を上回った。「短答式」の正答率は、県を上回ったものの、全国を下回った。

【課題】立場を明確にしながらか話し合い、自分の考えをまとめる。

1四は、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみるのが趣旨である。

本市の正答率は、国や県より上回っていたが、全体の正答率は53.8%と半数程度であった。話し合いの目的を意識したり問題点を踏まえて自分の考えをまとめたりすることに課題があると考えられる。

指導のポイント

- 話し合いを始める際に、話し合いの目的や方向性を検討することや話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめられるようにすることが重要である。
- ・ 自分のこととして考えることができるような話し合いのモデルを教師が提示し、話し合いの目的や方向性を児童と一緒に確認できるようにする。
- ・ 児童が自分の意見と友達の意見を比べる場面では、付箋を用いる等、必要な情報を整理できるようにする。
- ・ 考えをまとめていくにはどうしたら良いのか児童に気付かせる手立てとして、教師が作成したモデル文等を教材として活用し、内容や分量などに着目しながら話し合えるようにする。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

四 両さんは、「話し合いの様子の一語」の□で、「こみ捨い」か「花植え」かのどちらかを選んで話そうとしています。あなたも両さんなら、どのように話しますか。その内容を次の案件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 「こみ捨い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を考えて書くこと。
- 「話し合いの様子の一語」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、五十文字以上、八十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。
- 書き出しの言葉は、下書き用紙で、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
- 書き出しの言葉は、どこかで行き先を定めて、続けて書きましょう。

みなさんのアイデアや(メモ)から、取り組みやすいという理由で、私は

関連

解説資料P34～37、報告書P54～61（授業アイデア例を含む）

小学校国語

【課題】人物像や物語の全体像を具体的に想像する。

②は、物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の空欄Aに入る言葉を考えるとといった設問であり、登場人物の相互関係について描写を基に捉えることができるかどうかをみることが趣旨である。

本市では、条件①②にあてはまらない解答であったり、無解答であったりする割合が全国よりも高く、登場人物の相互関係について捉えることに課題があると考えられる。

指導のポイント

- 登場人物の人物像を具体的に想像するために、次のような学習活動を取り入れていくことが考えられる。
 - ・ 資料の中から中心となる語句や文章を見つけて線を引いたり、囲んだりする活動を低学年から系統的に学習に取り入れていく。
 - ・ 物語を読んで、登場人物の行動や気持ちの変化について話し合ったり、情景などを想像したことを、友達同士でも伝え合ったりする活動を、取り入れる。
 - ・ 物語の一部だけでなく、物語の全文が一枚の用紙に掲載されたシートを活用したり、物語全体を通しての登場人物の相関図などを作成したりして児童が視覚的にとらえて活動できるようにする。
 - ・ 文章の中で着目した叙述を取り上げそこから考えたことをICT機器やノート等を用いてまとめたり、共有したりすることで、物語の全体像を明確に捉えやすくし、理解できるようにする。

二 森田さんは、物語から伝わってくることをまとめ、せいせんする文章を書いています。次は、「森田さんの文章」です。あなたが森田さんなら、Aに入る内容を、どのように書きましますか。あとの条件に合わせて書きまします。

【森田さんの文章】

これは、過去や未来にいきるうちゅう船を作りたいと思っている「ぼく」と、そんなうちゅう船を作った「老人」の物語です。

この物語は、「老人」が未来の「ぼく」かもしれないと思わせる表現をさがして読む楽しさを味わうことができます。それだけでなく、この物語を読むと、わたしは前向きな気持ちになります。なぜかという、「老人」に出会った「ぼく」を通して、この物語がわたしに伝えてくれることがあるからです。それは、

A

（条件）

- この物語から伝わってくることを考えて書くこと。
- 十字以上、三十字以内にまとめて書くこと。

※左の専用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きまします。

※◆の印から書きまします。どちらの行で済ませないで、続けて書きまします。

小国-15

関連

解説資料P23～27、報告書P37～39

小学校国語

【課題】 【伝え合いの様子の一部】を基に自分の文章のよいところを書く。

③は文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみるのが趣旨である。

本市では、条件②の「【文章2】から言葉や文を取り上げて書いている」について、記述できていない誤答が全国・県より高く、具体的に感想や意見を伝え合うことを通して、よさを見付けたり、よさを言葉に表したりすることを苦手とする児童が多いと考えられる。

指導のポイント

- 児童が互いの文章に対する感想や意見を伝え合うことを通して、自分の文章の良いところを見付けることができるようにするため、次のような学習活動を取り入れていくことが考えられる。
 - ・ 児童が書き手の目的や意図をペアやグループで共通理解することで、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかを判断する。読み取ったことを判断したり、友達からの意見を聞いたりすることで、自分の文章の良さに気付けるようにする。
 - ・ 書き手が工夫したところを、自ら伝えられるように、教師は書き手に思いを表出させたり、工夫やよさに気付かせたりできる問いかけをする。
 - ・ 学級全体で伝え合いの観点を確認してから、児童はペアやグループの活動に入ることができるようにする。それらの活動の後に、学級全体でも伝え合ったことを共有する。
 - ・ 国語科だけではなく、他教科において書いた文章を読み合う場面でも、児童が自分の文章を読み返したり、そのよさを見付けたりすることが習慣化できるよう、教師が計画的に支援する。

関 連

解説資料P18～20、報告書P27～32（授業アイデア例を含む）